

1. 地域経済と課題

■ 図表1 ビッグマックの価格

国	現地価格	通貨	日本円換算
スイス	6.5	スイスフラン	949.1
アメリカ	5.15	ドル	738.1
イギリス	3.69	ポンド	512.7
ユーロ圏	4.65	ユーロ	647.1
韓国	4,600	ウォン	463.3
中国	24	元	482.5
日本	410	円	410.0

The Big Mac Indexのデータより筆者試算

- (1) 東洋経済オンライン (10/2) : 野口悠紀雄氏のビッグマックの価格からの考察/タイトル「日本人はビッグマック 410 円の貧しさを知らない」小見出し「窓を開けないと世界の状況がわからない」→足元の物価対策も重要だが、物価と賃金を見直すいいきっかけになれば。(価格は7月、日本は9月に410円、為替レートは9月末)
- (2) 企業物価指数 9.7%、消費者物価 3.0% (電気代 21.5%、都市ガス 25.5%) ゼロゼロ融資残高 56 兆円。原材料高+進まぬ転嫁+コロナ融資返済の三重苦。賃上げをどう実現?!
- (3) 9月に商工会議所の 11 部会すべてを開催した。「タクシーが来ない。特に夕方以降がひどい」という異口同音の発言がいくつも出た。特殊な状況なのか恒常的なのかを見極めて対策を講じる必要がある。観光客や高齢者の通院のためにも。
- (4) ロータリークラブの炉辺会合での建設関係社長の発言「価格は見積もり出来ても、納期が明記できない」。需要はあるのに部品のサプライチェーンの寸断が経営を苦しめている。

2. 経営相談(巡回・窓口)から見える地域経済と課題

- (1) 7月から9月までの第2四半期では巡回 141 件、窓口 555 件を行った。窓口については、前年比 33%減。国の支援金等申請が終了し、対応が減った事が要因と思われる。
- (2) 日本政策金融公庫のコロナ特別貸付の申請期限が3月末まで延長されたが、特別利子補給制度(実質無利子化)は9月末で取扱は終了。未だ終息せず長期化するコロナの影響で新規や借換の需要が見込まれる。
- (3) 唐津市が県の原油・原材料高に係る緊急対策事業(11月末まで申請期間延長)の交付済み者を対象に追加支援として助成金を交付中。申請期限はR5年1月末まで。
- (4) 全国旅行支援「GO!!佐賀旅」が10月11日にスタートし、宿泊割引や地域限定クーポンの効果で、コロナで落ち込んだ市内の観光産業の起爆剤となることを期待する。
- (5) 唐津市は今年度をDX元年と位置付け、その推進のため唐津DXイノベーションセンターを開設。事業者のデジタル化活用が推進される中、11月18日「SAGA IT フェア」で生産性向上のためのIT活用の検討を。

3. LOBO 調査(早期景気観測)&中小企業景況調査

(1) LOBO 調査【令和4年10月調査】

業況DIは、3カ月ぶりの改善もコスト増が重荷に。先行きは、円安や物価高の継続への警戒感強まる。

- ・全産業合計の業況DIは、▲20.7 (前月比+2.6ポイント)

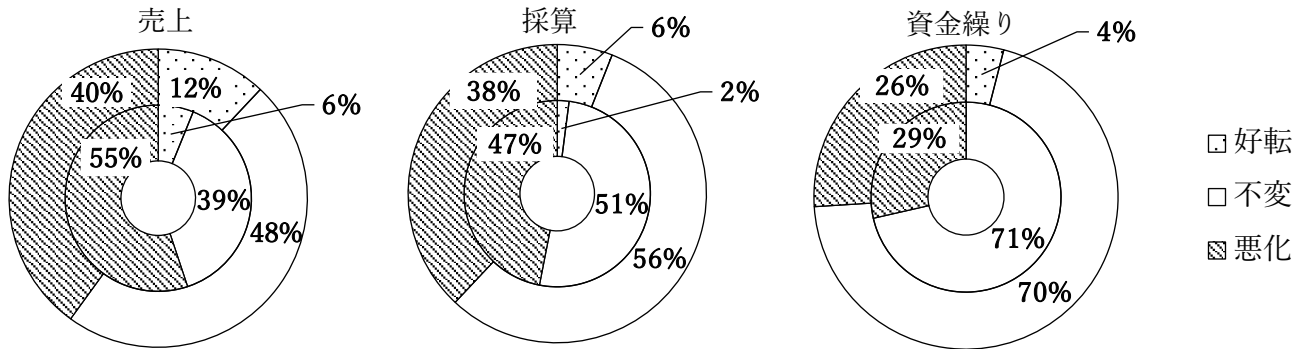
全国：水際対策の緩和や全国旅行支援による客足の回復で、飲食・宿泊業などのサービス業や、百貨店などの小売業で業況が改善した。また、卸売業も小売業・サービス業向けの引き合い増加に牽引されて業況が改善した。製造業でも消費者向けの飲食品関連や日用品の受注増により業況が改善した。一方、建設業では、建設資材価格の高騰が続いており、価格転嫁も十分に行えず、業況悪化が継続した。感染状況が小康状態となり、売上増加が見込まれるが、資源・原材料価格高騰の長期化や、150円台まで進んだ円安等によるコスト増がさらなる重荷となり、中小企業の業況は改善を示すも力強さを欠いている。

九州：業況DIは改善。小売業では、水際対策の緩和や全国旅行支援による客足の回復に伴い、百貨店や総合スーパーを中心に売上・採算が改善した。サービス業では、同業者間の価格競争の激化により販売単価に悪化傾向が見られるものの、客足の回復の影響で飲食・宿泊業を中心に売上・採算が改善した。今後のさらなる客足の増加を見越して、設備投資を実施予定であるという声も聞かれた。

(2) 中小企業景況調査【令和4(2022)年7月～9月調査】

円グラフの外側：前年同期（2021年7～9月）と比べた今期（2022年7～9月）の状況

内側：前々年同期（2020年7～9月）と比べた前年同期（2021年7～9月）の状況



直面している経営上の問題点（各業種の最も多かった問題点）

製造業：需要の停滞　小売業：消費者ニーズの変化への対応　サービス業：材料等仕入単価の上昇
 建設業：材料価格の上昇・従業員の確保難　卸売業：仕入単価の上昇・需要の停滞
 →原油・原材料の高騰が要因で材料や仕入れ価格上昇に苦しむ業種が多い。

4. 唐津の街のトピックス

- KARAE 関係 3 題：①シアターエンヤの7月の入場者が1000人到達、鑑賞者は飲食・商店の優遇が受けられる優待券がもらえ、周辺にも波及効果が。「週刊文春 CINEMA！2022 秋号」でも掲載。
 ②九州・沖縄のお出かけ情報メディア「TRIT」に「唐津を訪れたらマストで行きたい！」として紹介。③KARAE の「たまとり」をプロデュースした大塚瞳さんがドキュメンタリ番組「7 ルール」で全国放送。斯界では有名であり、白洲次郎・正子夫妻の旧宅・武相荘でのイベントもプロデュースの様も。
- 舞鶴荘でのイベント「Karatsu flow time」（毎月第4土曜日開催）、8月は～浴衣で夕涼み～、このために浴衣を新調された方もあり呉服屋さんも大喜び。
- まいづる 999 の新築工事が進んでいる。来年5月オープン予定。買い物の利便性とコミュニティの形成に役立つことを期待。
- （株）ぴーぷるが「島の未来を守るために 海のサムライの挑戦」が「NHK WORLD-JAPN 賞」を受賞。NHK が英語化して世界各国で放映される。
- JTB パブリッシング発行「ノジュール～50代からのとびと暮らしの発見マガジン～」(10月号)に「名品が教えてくれる唐津の器」が紹介され、中里太郎衛門窯、一番館、KARAE たまとり、土屋由紀子窯などが掲載。富裕層を対象とした雑誌に取り上げられると唐津のイメージアップにつながる。
- 「FRANPING VILLEGE 呼子」がオープンした。天草、大牟田、阿蘇、福島の各地と連携している。事業再構築補助金を活用している。コロナ禍の中でのチャレンジ精神あふれる取り組みを応援していきたい。
- 唐津市在住の大島仁氏が『科学と詩の架橋』（石風社）を上梓。西日本新聞（9月21日）の「西日本誌時評」で他の二人の作品とともに紹介されている。氏は「唐津塾」前代表また旧唐津市の最後の総合計画の策定委員も務められた。
- 「マツモトキヨシ」が唐津駅に12月にオープンする。地元の同業事業者にどのような影響があるのか注目される。
- ギャラリー「TOKIWAGI」が大名小路にオープン。クリエイティブディレクター・デザイナーの寺内ユミさんはUターン。作品集「There I sense something」は第25回自費出版文化賞「大賞」受賞。

唐津商工会議所では、『KCCI 地域経済四季報 Eクォーターリー』を発行します。市内の商工業、街づくりについての情報をお待ちしています。唐津商工会議所 TEL：72-5141 FAX：72-5146 Email：kcci@karatsu.or.jp